



みやぎの明治村 とよま資料館だより

登米市歴史資料館・高倉勝子美術館
発行/㈱とよま振興公社
〒987-0702
宮城県登米市登米町寺池桜小路2-1
Tel:0220-52-5566
Fax:0220-52-2630
http://toyoma.co.jp
発行日:令和6年12月1日



武家屋敷 春蘭亭編

第15号



図1 春蘭亭秋の風景

「とよま資料館だより」第15号は春蘭亭編です。春蘭亭につきましては、第6号で取り上げていますので、今回で2回目となります。

この春蘭亭は武家屋敷です。平成元年に鈴木家から旧登米町へ土地及び建物を寄贈していただき、その後、保存修理工事を行い、同2年に武家屋敷を町内で唯一、無料お休み処として一般公開を行った建物です。今年で34年目を迎えました。

鈴木家は登米伊達家御一族の家格で、初代登米伊達家当主宗直君の家臣鈴木将監重信の子孫です。

将監は慶長5年(1600)10月から同6年4月に起こった岩崎一揆で和賀主馬祐忠親に助勢し、南部信濃守利直勢と戦い戦死しています。

図2は宝暦4年(1754)頃の「登米居館並家中屋敷圖」です。この頃、登米伊達家第9代村良君が当主となっていた時期に当たります。この絵図から、鈴木家は桜小路と後小路が交差する東側に屋敷を与えられていたようです。

商家の「福島屋久右衛門日記」によると、鈴木家が現在の「春蘭亭」の敷地に屋敷替えとなったのは、寛政11年(1799)のことなので、この絵図の作成から45年後のことになります。

この絵図から、宝暦4年頃、前小路は桜小路に直線的に交差していて、居館に通じる橋が居館南側の御堀に架かっています。

宮城県図書館が所蔵している貞享4年(1687)「登米郡登米要害屋敷惣繪圖」も前小路は桜小路に直線的に交差しています。この惣繪圖によると、御堀に架かっている橋の長さは10間となっていますので約18メートル、堀の深さは橋の付近で7尺9寸となっていますので、約2メートル40センチメートルとなり、大人でも背が立たない位深い堀であったことが分かります。

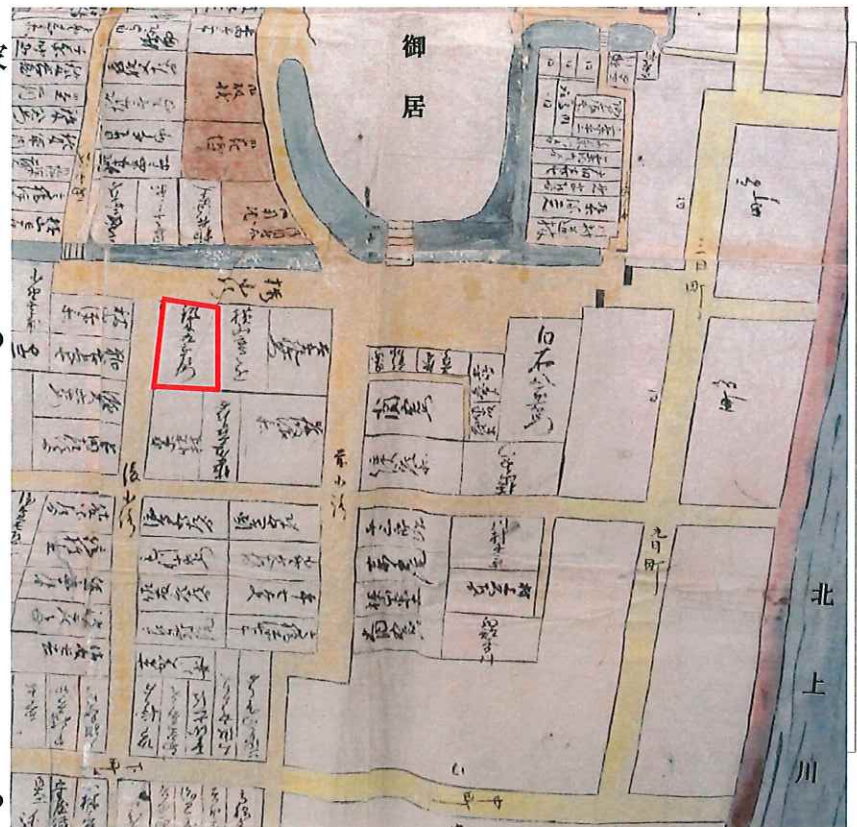


図2 登米居館並家中屋敷圖 (登米伊達家文書)
東北大学附属図書館所蔵 一部改変

裏面もご覧ください

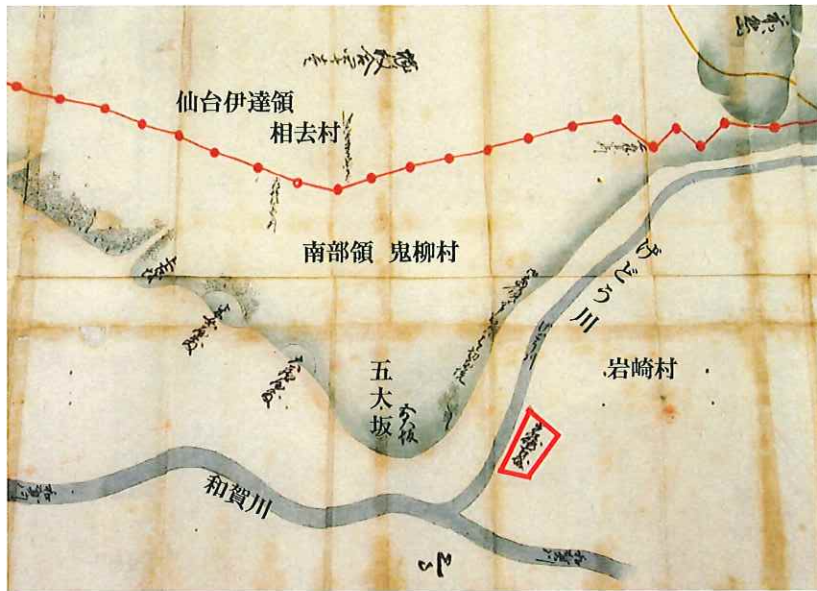


図3 相去鬼柳兩村境目申合取替繪圖 南部藩製圖 写本(彩色) 寛永19(1688) 所蔵:宮城県図書館に一部改変

図4は、東北大学附属図書館が所蔵している和賀氏の家譜書出です。これによると、伊達政宗が慶長5年(1600)8月に伊沢郡(胆沢)水沢まで出向き、水沢の立町という所で、和賀主馬祐と対面したことが書かれています。岩崎一揆が起こったのは、この対面から2か月後のこととなります。

この家譜書出は安永2年(1773)6月に書かれているようなので、岩崎一揆が発生してから173年経過していることとなります。しかし、政宗と忠親が対面した場所等詳しく書いています。

白達記(全)登米伊達伝承録 登米藩史料第二集に岩崎一揆に関する記述があり、これによると、「南部利直が徳川家康に対して、忠親が反乱を起こし、これに政宗が加勢をしていると訴え、家康は政宗に対して、忠親を自分のところに上らせるよう指示してきた。これを聞いた忠親は政宗に累を及ぼすわけにはいかないと、慶長6年5月24日仙台の国分尼寺で家士七人とともに自刃した。」と書いていますが、自刃につきましては、諸説あります。

政宗も自身に降りかかった嫌疑を払拭するため、家康に対して「自分は全く与り知らず、宗直が勝手に行ったことなので、宗直を荒蕪の地に移し、その罪を罰します。」として罪を逃れたと言われてはいますが、この岩崎一揆を扇動したことによって、政宗は「百万石のお墨付き」を反故にされてしまったと言われてはいます。

図3は、仙台伊達領内と南部領内の境界を示した絵図で、寛永19年(1688)6月10日に仙台伊達家と南部家が合意したものです。岩崎一揆は慶長5年(1600)10月に始まり、同6年(1601)4月に終了しましたので、87年後に作成された絵図ということになります。

宮城県図書館所蔵の中に、享保2年(1717)正月に書き写され、大正5年3月に宮城県図書館が謄写した「岩崎一揆由来」というものがあります。(「岩崎一揆由来」の一部を修正しています。)

これによると、慶長6年(1601)4月4日、「白石家来鈴木将監ト申者上下百五六十人ニテ泉徳寺ノ前五墓坂ヲ下二千苜田ノ背城南夏油川原ヘ通城ヘ入ラント仕所ヲ乙部大興寺手勢八十人計ニテ横合ニ掛合鯨波(げいは=ときの声)ヲ上ケ切掛ル將監モ聞ヘタル者ニテ白石相模カ侍大将鈴木将監重信年三十九名乗互ニ入乱半時計戦ヒ候所ニ大興寺家来宮森五郎吉ト名乗十文字ノ鎧手本短ク持出渡シ合ニ尺七寸ノ刀ヲ抜テ打テ掛ル五郎吉將監乗タル馬ノ前足突ケレハ馬ヲ引テ將監川中ヘコロヒ落ルヲ五郎吉スカサス突伏候所・・・」と書いてあります。

※図中では「五大坂」、「岩崎一揆由来」では「五墓坂」と表記され、げどう川(夏油川)が和賀川に合流する手前の左岸に「岩崎古城」と記しています。

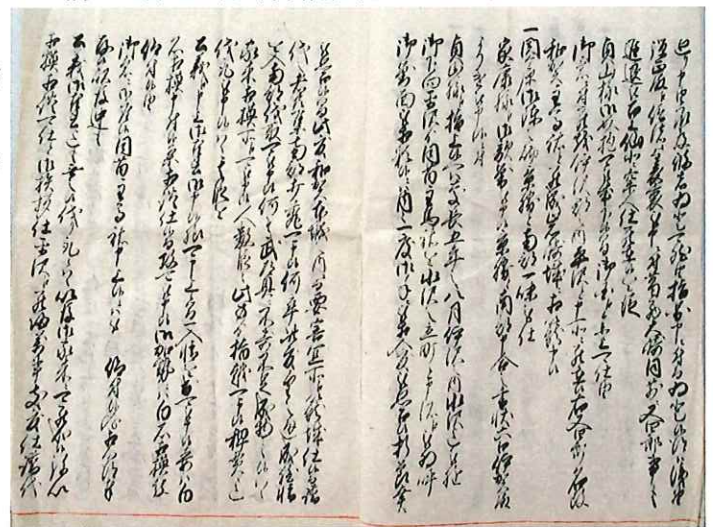


図4 家譜書出(和賀在苗奥州南部 和賀本苗多田撰州) 東北大学附属図書館所蔵(登米伊達家文書)

イベント情報

R6.8.10(土) ~ R7.8.31(日)
教育資料館(旧登米高等尋常小学校)
企画展「学童集団疎開から80年」

編集後記

岩崎一揆で白石宗直は伊達政宗の命を受け、和賀忠親を支援しましたが、宗直家臣の鈴木将監は夏油川原で奮闘の末、戦死したと言われています。今年8月に夏油川原周辺に行ってきました。現在の夏油川を見ると、川の幅が狭く、このような場所で戦が行われたと考えられない程でした。また、国指定史跡南部領伊達領境塚も近くにありました。

鎌田

次号の告知

次号は《水沢県庁記念館編》で、来年3月に発行予定です。

水沢県庁舎は明治8年8月まで県庁舎として使用され、その後、登米小学校として明治21年10月まで使用された後、昭和33年まで裁判所として再利用されました。



“みやぎの明治村”SNS 随時更新中です！
チェックしてみてください。